

2013年度決算説明会(電話会議)資料

2014年 5月20日(火)

MS&AD
INSURANCE GROUP

MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社

MS&ADホールディングスの田中でございます。
本日はお忙しい中、弊社の決算説明電話会議にご参加いただき、ありがとうございます。

本日は、「決算短信」、「決算説明資料」に加えまして、「2013年度決算説明会 電話会議資料」と題したスライド形式の資料を用意しております。ご説明は、このスライド形式の資料に沿って行ないます。

全体目次

2013年度決算の概要

グループ連結	資料1-3
国内損害保険会社	資料4-8
国内生命保険会社	資料9-10
海外保険子会社	資料11

2013年度決算データ

三井住友海上(単体)	資料12-14
あいおいニッセイ同和損保(単体)	資料15-17

2014年度業績予想

グループ連結	資料18-20
今回業績予想の主な前提	資料21
三井住友海上(単体)	資料22-23
あいおいニッセイ同和損保(単体)	資料24-25

2013年度決算の概要

グループ連結	資料 1-3
国内損害保険会社	資料 4-8
国内生命保険会社	資料 9-10
海外保険子会社	資料 11

資料1 グループ連結（2013年度）①業績の概要 1

- 元受正味保険料は、前期比+6.3%増収となる 3兆693億円
- 正味収入保険料は、国内損害保険会社、海外保険子会社ともに貢献し、前期比+6.4%の増収
- 生命保険料は、三井住友海上プライマリー生命の販売好調が牽引し、前期比+19.3%の増収

(億円)

	2012年度	2013年度		
			前期比	増減率
元受正味保険料(除く収入積立保険料) [※]	28,864	30,693	1,829	6.3%
正味収入保険料 [※]	26,394	28,095	1,701	6.4%
三井住友海上	13,142	13,845	702	5.3%
あいおいニッセイ同和損保	11,032	11,446	413	3.8%
三井ダイレクト損保	352	355	2	0.8%
海外保険子会社	1,861	2,406	544	29.2%
生命保険料	5,690	6,789	1,099	19.3%

※ 自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

<参考：保険料(グロス収入保険料)>

	2012年度	2013年度		
			前期比	増減率
三井住友海上あいおい生命	4,213	4,167	△ 46	△ 1.1%
三井住友海上プライマリー生命	4,493	8,264	3,771	83.9%

まず、グループ連結の2013年度決算について概要をご説明いたします。
スライド1ページ目の「資料1」をご覧ください。

このページには、グループ連結の収入保険料および生命保険料について、記載しております。

元受正味保険料は、6.3%増収し、3兆693億円となり、3兆円を超えました。
また、正味収入保険料は、国内損害保険会社が堅調に増収していることに加え、海外保険子会社も大きく増収したことにより、前期に対しプラス1,701億円と6.4%の増収となりました。

一方、生命保険料は、三井住友海上プライマリー生命が大きく寄与し、前期に対しプラス1,099億円と19.3%の大幅な増収となりました。

資料2 グループ連結（2013年度）①業績の概要 2

- ・ 経常利益は、大雪の影響があったものの、資産運用の大幅増益により前期比+26.6%の1,902億円
- ・ 当期純利益は、前期比+11.8%の934億円、MS&ADグループ発足以来の最高益を達成
- ・ グループコア利益は、前期比+8.5%の948億円

(億円)

	2012年度	2013年度		
		前期比	増減率	
経常利益 [※]	1,503	1,902	399	26.6%
三井住友海上	653	1,019	366	56.0%
あいおいニッセイ同和損保	258	278	20	7.9%
三井ダイレクト損保	5	2	△ 2	△ 43.3%
三井住友海上あいおい生命	74	174	100	134.1%
三井住友海上プライマリー生命	389	398	9	2.4%
海外保険子会社	188	298	110	58.5%
その他・連結調整等	△ 67	△ 271	△ 204	-
当期純利益 [※]	836	934	98	11.8%
三井住友海上	426	580	153	36.1%
あいおいニッセイ同和損保	188	131	△ 57	△ 30.5%
三井ダイレクト損保	3	1	△ 1	△ 49.8%
三井住友海上あいおい生命	4	66	62	1,356.4%
三井住友海上プライマリー生命	103	179	75	73.2%
海外保険子会社	126	199	72	57.4%
その他・連結調整等	△ 17	△ 224	△ 207	-
グループコア利益 [※]	874	948	74	8.5%
グループROE [※]	5.0%	4.5%	△ 0.5pt	-

※ 子会社の経常利益、当期純利益は、出資持分ベース。「グループコア利益」、「グループROE」の定義は最終ページご参照

次に、グループ連結の経常利益、当期純利益についてご説明いたします。
「資料2」をご覧ください。

国内損害保険会社の主要2社が、大雪の影響があったものの、資産運用損益の増益などにより利益を確保するとともに、国内生保子会社、海外保険子会社とも増益となったことから、グループ連結の経常利益は、前期から26.6%増益の1,902億円。同じく当期純利益は、11.8%増益の934億円となり、グループ発足以来の最高益を達成しました。

また、グループコア利益については、前期から8.5%増益の948億円となりました。

なお、本日、取締役会で、株主還元および資本効率の向上を目的として、取得価額総額100億円を上限とする自己株式取得を決議いたしました。

取得期間は、5月21日より9月19日まで、株式総数の上限は、550万株としております。

資料3 グループ連結（2013年度）②前期との比較

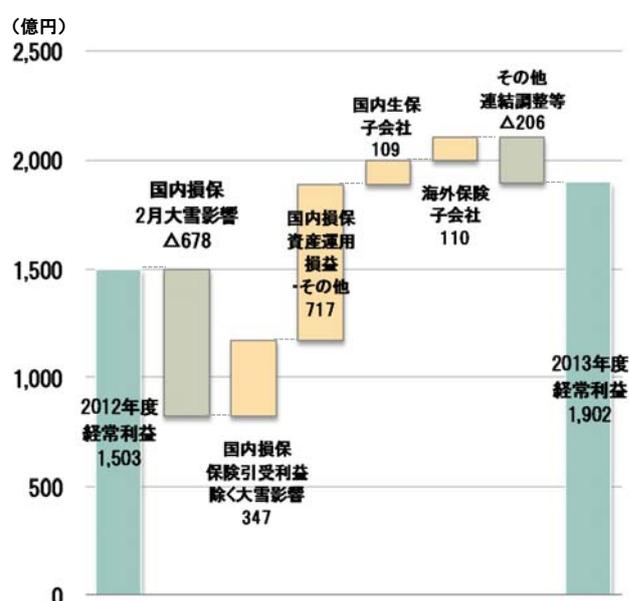
- 国内損保では、2月の大雪影響は△678億円。大雪を除く保険引受利益は前期比+347億円
- 国内損保の資産運用損益は、市場環境の好転により大きく改善し、前期比+717億円
- 成長分野である国内生保、海外事業でも、それぞれ前期比100億円を超える増益

連結経常利益の増減要因 (億円)

	2012年度 (a)	2013年度 (b)	差額 (b)-(a)
連結経常利益	1,503	1,902	399
国内損保 ^{※1} 2月の大雪に係る 保険引受利益影響額 ^{※2}	-	△ 678	△ 678
国内損保 ^{※1} 保険引受利益 (2月の大雪除き)	△ 30	317	347
国内損保 ^{※1} 資産運用損益・その他	942	1,660	717
国内生保子会社	464	573	109
海外保険子会社	188	298	110
その他連結調整等	△ 62	△ 268	△ 206

※1 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計
 ※2 異常危険準備金の取崩額を含む

【連結経常利益】



連結経常利益の前期からの増益について、主な要因とそれぞれの影響額を左側の表にまとめ、右側にグラフでお示しております。

今年2月の大雪の影響については、後程、詳細をご説明いたしますが、国内損保主要2社の経常利益を合計で678億円押し下げる要因となりました。

一方、大雪の影響を除いた国内損保の保険引受利益は、前期比プラス347億円と、前期のマイナスから大きく改善し、317億円の黒字となりました。

また、運用環境の改善により国内損保の資産運用損益が717億円増益となったことも、経常利益の増益に大きく寄与しています。

これに加え、国内生保子会社、海外保険子会社がともに100億円を超える増益となっており、連結経常利益の増益に貢献しております。

資料4 国内損害保険会社（2013年度）①主要2社の業績概要 1

- ・ 正味収入保険料は、火災保険や自動車保険を中心に堅調に、2社合計で前年比+4.6%、1,116億円の増収
- ・ コンバインド・レシオは損害率の改善により、2社合計で前期比△7.0pt低下し、98.2%

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和(単体)		＜ご参考＞2社合計(単純合計)	
		前期比		前期比		前期比
正味収入保険料	13,845	702	11,446	413	25,291	1,116
正味収入保険料 増収率	5.3%	1.8pt	3.8%	1.1pt	4.6%	1.5pt
正味支払保険金	(-) 8,236	△ 637	6,917	△ 343	15,154	△ 981
<インカードロス>	(-) 8,321	△ 10	7,289	119	15,611	109
諸手数料及び集金費	(-) 2,390	103	2,047	89	4,437	193
営業費及び一般管理費(保険引受)	(-) 2,045	71	1,904	102	3,950	173
普通責任準備金繰入額	(-) 454	215	30	160	484	375
異常危険準備金戻入額	21	△ 157	8	△ 232	30	△ 389
保険引受利益	△ 73	23	△ 288	△ 355	△ 361	△ 331
諸比率						
正味損害率	65.1%	△ 8.2pt	65.0%	△ 5.4pt	65.0%	△ 7.0pt
正味事業費率	32.0%	△ 0.4pt	34.5%	0.4pt	33.2%	0.0pt
コンバインド・レシオ	97.1%	△ 8.6pt	99.5%	△ 5.0pt	98.2%	△ 7.0pt
<除く家計地震・自賠責>						
正味損害率	62.2%	△ 8.3pt	62.0%	△ 5.3pt	62.1%	△ 7.0pt
正味事業費率	34.1%	0.0pt	36.5%	0.8pt	35.2%	0.4pt
コンバインド・レシオ	96.3%	△ 8.3pt	98.5%	△ 4.5pt	97.3%	△ 6.6pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

次に、国内損害保険会社の2013年度業績の概要について、主要2社合計でご説明いたします。「資料4」をご覧ください。

まず、正味収入保険料は、2社ともに家計分野が好調だった火災保険や、料率改定効果もあった自動車保険が増収したことなどから、2社合計で前期比プラス1,116億円、4.6%の増収となりました。

次に正味支払保険金は、大雪による支払いが発生したものの、大雪以外の国内自然災害や、2011年度に発生したタイ洪水に関わる支払いが昨年度に比べ減少したこと、自動車保険の支払保険金が減少したことなどにより、前期比981億円の大幅な減少となりましたが、インカードロスについては、大雪の影響により、2社合計で前期比109億円の増加となりました。

一方で、異常危険準備金の戻し入れは、支払保険金の減少に伴い前期から389億円減少し、保険引受利益へマイナスの影響となりました。

以上の結果、2社合計の保険引受利益は、前期から331億円減少し、マイナス361億円となりました。

また、コンバインド・レシオでは、正味収入保険料が増収、支払保険金が減少したことで、正味損害率が大きく改善したことを主因に、7ポイント低下し、98.2%と100%を切る水準まで改善が進みました。

資料5 国内損害保険会社（2013年度）①主要2社の業績概要 2

- ・ 資産運用・その他収支は、市場環境の好転により、2社合計で前期比+717億円の増加
- ・ 当期純利益は、2社合計で前期比+96億円の 711億円

(億円)

	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和(単体)		＜ご参考＞2社合計(単純合計)	
		前期比		前期比		前期比
保険引受利益	Δ 73	23	Δ 288	Δ 355	Δ 361	Δ 331
ネット利息及び配当金収入	709	131	459	56	1,168	188
有価証券売却損益	548	16	195	123	743	139
有価証券評価損	(-) 33	Δ 249	36	Δ 61	70	Δ 311
資産運用・その他収支	1,093	342	567	375	1,660	717
経常利益	1,019	366	278	20	1,298	386
特別損益	Δ 174	Δ 151	Δ 56	Δ 40	Δ 231	Δ 191
税引前当期純利益	845	214	222	Δ 19	1,067	194
当期純利益	580	153	131	Δ 57	711	96

次に、「資料5」をご覧ください。

このスライドでは、資産運用損益および経常利益、当期純利益についてご説明します。

資産運用については、配当金の増加などによりネット利配が2社合計で前期比+188億円増加したことに加え、市場環境が好調に推移したことから有価証券売却損益の増益・評価損の減少などにより、資産運用とその他収支の合計は、前期比プラス717億円の1,660億円となりました。

なお、三井住友海上について、今期繰り入れた貸倒引当金には、タイ洪水に関わる再保険金回収債権に関し、信用状態に懸念がある一部の出再先について個別に引き当てを実施したものが含まれています。

この結果、国内損害保険主要2社合計の経常利益は、前期比386億円増益の1,298億円、当期純利益は、前期比96億円増益の711億円となっております。

なお、三井住友海上は、将来の価格変動リスクに対する備えを強化するため、価格変動準備金の追加積立て120億円を計上しましたが、グループ・コア利益の算出においては対象外としております。

また、機能別再編に係るコストを特別損失として2社合計で82億円計上しています。

また、復興特別法人税の前倒し廃止に伴う税負担が、2社合計で71億円発生しました。

資料6 国内損害保険会社（2013年度）②自然災害の影響

- ・ 2月の大雪に係るインカードロスは、821億円。異常危険準備金取崩し効果を含め、保険引受利益を678億円押し下げた。
- ・ 国内自然災害・タイ洪水のインカードロスが減少し、大雪と両者のインカードロスの合計は、前期比+408億円に留まった。

2月の大雪・国内自然災害およびタイ洪水の影響

(億円)

	支払保険金		支払備金積増額		インカードロス		支払備金残高
		前期比		前期比		前期比	
2014年2月大雪による損害	184	184	637	637	821	821	637
三井住友海上	86	86	368	368	454	454	368
あいおいニッセイ同和損保	98	98	269	269	367	367	269
当年度発生国内自然災害	319	△ 179	52	18	371	△ 160	52
三井住友海上	182	△ 101	37	14	219	△ 87	37
あいおいニッセイ同和損保	137	△ 77	14	4	152	△ 73	14
タイ洪水(2011年度発生)	427	△ 429	△ 671	176	△ 244	△ 253	215
三井住友海上	366	△ 364	△ 569	96	△ 203	△ 267	190
あいおいニッセイ同和損保	34	△ 53	△ 61	84	△ 26	31	9
海外保険子会社	25	△ 11	△ 40	△ 5	△ 14	△ 16	14
合 計	930	△ 424	18	832	948	408	905

次に、「資料6」をご覧ください。こちらに、当年度に発生した「国内自然災害」と、今年2月に発生した大雪、および2011年度に発生した「タイ洪水」について、2013年度決算に対する影響をまとめております。

まず、2月に関東地方を中心に大きな被害をもたらした大雪の損害につきましては、主要損保2社合計のインカード・ロスが、821億円となりました。

このうち、3月末までの支払保険金として184億円、3月末の支払備金として637億円を計上しています。また、異常危険準備金の取崩し額を含めた、経常利益への影響は、678億円となりました。

つぎに、国内の自然災害では、上半期には台風18号および台風26号などによる被害があったものの、下期は落ち着いた動きとなり、インカードロスは主要損保2社合計で371億円となり、前期比で160億円減少しました。

つづいて「タイ洪水」につきましては、グループ合計で427億円の保険金を支払いました。また、インカードロスは、損害調査の進展などにより、グループ合計でマイナス244億円となり、利益にはプラス要因となっています。

これら自然災害の影響を合計いたしますと、このスライドの一番下の行にあります通り、支払保険金は前期比424億円減少、インカードロスは前期比408億円増加となりました。

資料7 国内損害保険会社（2013年度）③準備金・評価損

- ・異常危険準備金は、支払保険金減少により取崩額が減少。これに伴い、異常危険準備金の追加繰入は実施せず。
- ・2013年度の政策株式売却額は、1,735億円。2011年度からの通算売却実績は、3,764億円

	三井住友海上				あいおいニッセイ同和損保			
	取崩額	繰入額	ネット増減額	残高	取崩額	繰入額	ネット増減額	残高
火災	296	191	△ 105	1,005	159	108	△ 50	1,045
海上	-	25	25	693	-	5	5	138
傷害	74	45	△ 29	621	-	23	23	589
自動車	189	194	5	194	207	212	4	212
その他	19	101	81	1,470	42	51	9	505
合計	579	558	△ 21	3,985	410	401	△ 8	2,491
(前期比)	△ 604	△ 446	157		△ 208	23	232	

	MS&AD ホールディングス (連結)	三井住友海上 (単体)	あいおいニッセイ 同和損保(単体)	その他子会社 (単体)	連結調整
有価証券評価損	32	33	36	1	△ 39
(前期比)	△ 350	△ 249	△ 61	△ 1	△ 37

「資料7」の上の表をご覧ください。異常危険準備金の状況をご説明いたします。

この表は、異常危険準備金の取崩しおよび繰入れについて、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保の状況をお示しています。

先に資料4でご説明した通り支払保険金が減少したことから、異常危険準備金の取崩し額は大きく減少しております。

これに伴い、異常危険準備金の追加繰入については、2013年度は行っておりません。

下の表は、有価証券評価損についてまとめております。
グループ連結で前期から350億円 減少しています。

なお、政策株式につきましては、2013年度は2社合計で、1,735億円を売却し、2011年度からの累計売却額は、3,764億円に達しました。

資料8 国内損害保険会社（2013年度）④自動車保険の状況

- 商品改定効果による保険料単価の上昇を主因に保険料収入は拡大
- 事故件数の減少と保険料収入の拡大により、E I損害率は大幅に改善。但し、保険金単価は引き続き上昇傾向

事故件数の推移（除く自然災害*、1日あたり、対前年同月増減）*このページにおいて「自然災害」は2月大雪等の雪害を含まない

三井住友海上



あいおいニッセイ同和損保



保険料・保険金・E I損害率

三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.5%	+2.4%	+2.9%
<国内>	対人	対物	車両 (除く自然災害)
保険金単価増減	+16.2%	+3.4%	+9.1%
<含む損害調査費>	2012.3	2013.3	2014.3
E I 損害率	73.0%	69.8%	66.5%

あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	△ 0.8%	+2.3%	+1.5%
<国内>	対人	対物	車両 (除く自然災害)
保険金単価増減	+9.6%	+5.2%	+10.4%
<含む損害調査費>	2012.3	2013.3	2014.3
E I 損害率	69.9%	68.8%	66.3%

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-3月)の対前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2013年3月末までの1年間の保険金単価に対する、2014年3月末までの1年間の保険金単価の増減を表示

※ E I 損害率は、損害調査費を含むベース。期間は各年度の4-3月

次に自動車の収支改善状況について説明します。「資料8」をご覧ください。

上の表は、三井住友海上・あいおいニッセイ同和損保の2社について事故件数の増減を前年同月比で示した折れ線グラフです。

事故件数については、2月の大雪影響があったものの、基調としては社会全体の交通事故件数の減少や、これまで積み重ねてきた収支改善施策の成果、および2012年10月に実施したノンフリート等級制度改定の影響などもあり、2013年度は、ご覧のとおり三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保とも対前期比で減少しています。

次に、下の表のうち、中ほどに示した「保険金単価」の増減をご覧ください。

両社とも車両事故単価は引き続き上昇しておりますが、これは、従来からの修理費の上昇に加え、小額事案の減少による影響もあると見ております。

一方、その上に示した保険料については、引き続き、両社ともこれまでに実施した料率改定などの商品改定の効果を取り込めており、保険料単価は前期比プラス2%を超える水準で推移しています。

下段は、損害調査費を含んだアード・インカード損害率の推移です。

損害率は改善しておりますが、自動車保険の収支改善は、まだ途上にあると認識しています。

このような状況に加え、今年4月に実施された消費税率の引き上げの影響も想定されることから、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保ともに、自動車保険の料率を、本年10月に、平均1.9%程度引き上げる予定です。

資料9 国内生命保険会社(三井住友海上あいおい生命) 2013年度業績概要

- ・ 新契約高は、昨年4月の料率改定影響などにより、前期比△28.0%
- ・ 第三分野の新契約年換算保険料は、新商品(新医療A)の販売好調により、前期比+55.9%
- ・ 当期純利益は、責任準備金繰入負担の軽減、資産運用収益の増加等により、66億円
- ・ EEVは、新契約価値の増加および経済環境の変動影響を主因に、前期比+916億円増加し 5,881億円

三井住友海上あいおい生命

(億円)

	2012年度	2013年度		
			前期比	増減率
新契約高(個人合計)	37,105	26,722	△ 10,383	△ 28.0%
保有契約高(個人合計)	200,746	211,050	10,304	5.1%
新契約年換算保険料	502	423	△ 78	△ 15.6%
うち 第三分野	69	109	39	55.9%
保有契約年換算保険料	3,197	3,358	161	5.1%
うち 第三分野	551	611	59	10.8%
保険料(グロス収入保険料)	4,213	4,167	△ 46	△ 1.1%
経常利益	74	174	100	134.1%
当期純利益	4	66	62	1,356.4%
基礎利益	58	153	95	163.3%
EEV	4,964	5,881	916	
純資産価値	1,989	1,950	△ 39	
保有契約価値	2,974	3,931	956	
うち新契約価値	87	391	303	

次に国内生命保険会社の状況について説明します。「資料9」をご覧ください。
まず、三井住友海上あいおい生命についてご説明します。

2013年度は、昨年4月の料率改定の影響などにより、新契約高が前期比マイナス28.0%、新契約年換算保険料が前期比マイナス15.6%となりましたが、昨年12月に発売を開始した「新医療保険A(エース)」の販売が好調で、第三分野の新契約年換算保険料は、前期比プラス55.9%と高い伸びとなりました。

また、保有契約高、保有契約年換算保険料は、ともに前期比 5.1%増加となり、着実に成長しています。特に保有契約年換算保険料は、3,358億円となり、中期経営計画の経営数値目標3,300億円を達成しました。

当期純利益は、資産運用収支が改善したことなどから、前期比62億円増益の66億円となりました。

EEVについては、第三分野新商品の販売が好調だったことなどにより新契約価値が増加したことや、市場金利を中心とした経済環境の変動の影響を主な要因として、前期比916億円増加の、5,881億円となりました。

資料10 国内生命保険会社(三井住友海上プライマリー生命) 2013年度業績概要

- ・ グロス収入保険料は、定額終身の販売好調により 前期比+83.9%増収し 8,264億円
- ・ 当期純利益は、保有契約高増加に伴う手数料収入の拡大などにより、前期比+73.2%増益の 179億円
- ・ 最低保証リスク、為替変動リスクへの備えとして、危険準備金50億円、価格変動準備金150億円の追加積立を実施

三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2012年度	2013年度		
		前期比	増減率	
新契約高 (個人合計)	4,322	8,005	3,683	85.2%
保有契約高 (個人合計)	36,614	40,243	3,629	9.9%
新契約年換算保険料	1,072	1,619	547	51.0%
保有契約年換算保険料	4,342	4,543	200	4.6%
保険料(グロス収入保険料)	4,493	8,264	3,771	83.9%
経常利益	389	398	9	2.4%
当期純利益	103	179	75	73.2%
基礎利益	379	583	204	53.9%
EEV	1,612	2,329	717	
純資産価値	957	1,326	368	
保有契約価値	654	1,003	348	
うち新契約価値	158	287	128	

続いて三井住友海上プライマリー生命について説明します。「資料10」をご覧ください。

三井住友海上プライマリー生命では、外貨建定額終身保険の販売が引き続き好調であることに加え、運用環境の改善により、変額商品の販売も好調だったことから、新契約高は、前期比85.2%増加の8,005億円、グロス収入保険料は、前期比83.9%増加の8,264億円となりました。

保有契約高は、販売が好調だった事に加え、市場環境がおおむね良好に推移したことを反映して、前期比9.9%増加の4兆243億円となりました。

当期純利益は、保有契約高の増加により手数料収入が増加したことなどから、前期比75億円増益の179億円となっております。

なお、今年度、変額年金保険の最低保証リスクに対し、危険準備金を50億円、外貨建定額終身保険の為替変動リスクに対し、価格変動準備金を150億円、それぞれ追加積立を行っており、将来のリスク発現に対する備えを進めております。

資料11 海外保険子会社（2013年度）業績概要

- ・ 正味収入保険料は、全地域において現地通貨ベースで増収。円安効果もあり、前年比+29.2%となる544億円の増収
- ・ 当期純利益は、保険引受収益の増益を主因として、前期比+72億円増益の199億円

海外保険子会社		(億円)			
	2012年度	2013年度	前期比		
			前期比	増減率	
正味収入保険料	1,861	2,406	544	29.2%	
アジア	919	1,186	266	29.0%	
欧州	508	689	181	35.7%	
米州	278	363	85	30.8%	
再保険	156	167	10	6.9%	
当期純利益	126	199	72	57.4%	
アジア	90	115	24	27.4%	
欧州	△ 16	△ 2	14	-	
米州	1	0	△ 0	△ 57.4%	
再保険	51	85	34	66.1%	

次に海外保険子会社の状況について説明します。「資料11」をご覧ください。

正味収入保険料は、円安の影響もあり、全体で前期比29.2%増収の、2,406億円となりました。

なお、現地通貨ベースでも、再保険を除く全ての地域で増収しております。

当期純利益については、アジア、再保険が寄与し、前期比72億円増益の199億円となりました。

2013年度決算 データ

三井住友海上(単体)	資料12-14
あいおいニッセイ同和損保(単体)	資料15-17

次ページ「資料12」から「資料17」まで、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の2社について、単体の2013年度業績を付けております。後ほどご確認ください。

資料12 三井住友海上（単体）2013年度業績 ①

（億円）

	2012年度	2013年度	
			前期比
正味収入保険料	13,142	13,845	702
正味収入保険料 増収率	3.5%	5.3%	1.8pt
正味損害率	73.3%	65.1%	△8.2pt
正味事業費率	32.4%	32.0%	△0.4pt
コンバインド・レシオ	105.7%	97.1%	△8.6pt
インカードロス	8,331	8,321	△10
保険引受利益	△97	△73	23
ネット利息及び配当金収入	577	709	131
有価証券売却損益	531	548	16
有価証券評価損	△283	△33	249
資産運用損益	825	1,251	426
経常利益	653	1,019	366
特別損益	△23	△174	△151
当期純利益	426	580	153
＜除く家計地震・自賠責＞			
正味収入保険料 増収率	3.1%	4.7%	1.6pt
正味損害率	70.5%	62.2%	△8.3pt
正味事業費率	34.1%	34.1%	0.0pt
コンバインド・レシオ	104.6%	96.3%	△8.3pt

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

資料13 三井住友海上（単体）2013年度業績 ②

	2012年度	2013年度	
			増収率
火災	1,878	2,122	13.0%
海上	537	567	5.6%
傷害	1,429	1,446	1.2%
自動車	5,905	6,083	3.0%
自賠責	1,572	1,734	10.3%
その他	1,818	1,889	3.9%
合計	13,142	13,845	5.3%
除く家計地震・自賠責	11,559	12,103	4.7%

※自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

	2012年度	2013年度	
			前期比
火災	107.2%	70.9%	△36.3pt
海上	51.9%	59.6%	7.7pt
傷害	59.2%	60.4%	1.2pt
自動車	68.7%	63.5%	△5.2pt
自賠責	94.4%	85.4%	△9.0pt
その他	52.7%	50.2%	△2.5pt
合計	73.3%	65.1%	△8.2pt
除く家計地震・自賠責	70.5%	62.2%	△8.3pt

資料14 三井住友海上(単体) 2013年度業績 ③

インカードロスとEI損害率 (除く損害調査費)

(億円)

	2012年度					2013年度					前期比
	インカードロス (a)	EI損害率	自然災害 影響 (b)	(a)-(b)	EI損害率 (除く自然災害 影響)	インカード ロス (c)	EI損害率	自然災害 影響 (d)	(c)-(d)	EI損害率 (除く自然災害 影響)	
火災 (除く家計地震)	1,294	76.1%	310	983	57.8%	1,254	69.0%	364	889	48.9%	△8.9pt
海上	280	53.1%	0	279	53.0%	351	62.9%	4	347	62.2%	9.2pt
傷害	768	54.9%	△0	768	54.9%	783	55.2%	0	782	55.1%	0.2pt
自動車	3,638	62.4%	33	3,604	61.8%	3,565	59.2%	60	3,504	58.2%	△3.6pt
その他	999	56.4%	25	974	54.9%	1,006	55.1%	39	967	53.0%	△1.9pt
合計(A)	6,981	62.1%	370	6,610	58.8%	6,961	59.8%	469	6,491	55.8%	△3.0pt
家計地震(B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自賠償(C)	1,350	—	—	1,350	—	1,359	—	—	1,359	—	—
合計(A)+(B)+(C)	8,331	—	370	7,960	—	8,321	—	469	7,851	—	—

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

※インカードロス＝正味支払保険金＋支払備金増額

※EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金を調整して算出

※合計(A)は除く家計地震、自賠償

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害、大雪(2014年2月発生) およびタイ洪水に係るインカードロスの合計

資料15 あいおいニッセイ同和損保(単体) 2013年度業績 ①

(億円)

	2012年度	2013年度	
			前期比
正味収入保険料	11,032	11,446	413
正味収入保険料 増収率	2.7%	3.8%	1.1pt
正味損害率	70.4%	65.0%	△5.4pt
正味事業費率	34.1%	34.5%	0.4pt
コンバインド・レシオ	104.5%	99.5%	△5.0pt
インカードロス	7,170	7,289	119
保険引受利益	66	△288	△355
ネット利息及び配当金収入	402	459	56
有価証券売却損益	72	195	123
有価証券評価損	△97	△36	61
資産運用損益	197	530	332
経常利益	258	278	20
特別損益	△16	△56	△40
当期純利益	188	131	△57
〈除く家計地震・自賠償〉			
正味収入保険料 増収率	2.4%	3.2%	0.8pt
正味損害率	67.3%	62.0%	△5.3pt
正味事業費率	35.7%	36.5%	0.8pt
コンバインド・レシオ	103.0%	98.5%	△4.5pt

資料16 あいおいニッセイ同和損保(単体) 2013年度業績 ②

正味収入保険料 (億円)

	2012年度	2013年度	
		増収率	
火災	1,263	1,357	7.4%
海上	95	112	17.2%
傷害	719	726	1.0%
自動車	6,448	6,589	2.2%
自賠責	1,528	1,642	7.5%
その他	975	1,017	4.3%
合計	11,032	11,446	3.8%
除く家計地震・自賠責	9,496	9,798	3.2%

正味損害率

	2012年度	2013年度	
		前期比	
火災	81.1%	64.8%	△16.3pt
海上	50.5%	52.4%	1.9pt
傷害	51.8%	50.3%	△1.5pt
自動車	67.1%	63.2%	△3.9pt
自賠責	90.4%	83.0%	△7.4pt
その他	63.2%	59.3%	△3.9pt
合計	70.4%	65.0%	△5.4pt
除く家計地震・自賠責	67.3%	62.0%	△5.3pt

資料17 あいおいニッセイ同和損保(単体) 2013年度業績 ③

インカードロスとEI損害率 (除く損害調査費)

(億円)

	2012年度					2013年度					
	インカードロス (a)	EI損害率	自然災害 影響 (b)	(a)-(b)	EI損害率 (除く自然災害 影響) (c)	インカード ロス (c)	EI損害率	自然災害 影響 (d)	(c)-(d)	EI損害率 (除く自然災害 影響) (e)	前期比
火災 (除く家計地震)	810	62.8%	125	684	53.0%	1,005	73.9%	395	609	44.9%	△8.1pt
海上	52	56.7%	—	52	56.7%	52	49.6%	—	52	49.6%	△7.1pt
傷害	337	49.3%	0	337	49.3%	337	49.6%	0	337	49.5%	0.2pt
自動車	4,079	63.7%	35	4,044	63.1%	4,016	61.4%	77	3,939	60.2%	△2.9pt
その他	618	62.6%	6	612	61.9%	614	61.7%	20	594	59.7%	△2.2pt
合計(A)	5,899	62.3%	167	5,731	60.6%	6,027	62.3%	493	5,534	57.2%	△3.4pt
家計地震(B)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
自賠責(C)	1,271	—	—	1,271	—	1,262	—	—	1,262	—	—
合計(A)+(B)+(C)	7,170	—	167	7,002	—	7,289	—	493	6,796	—	—

※インカードロス＝正味支払保険金＋支払備金積増額

※EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料、保険料積立金等を調整して算出

※合計(A)は除く家計地震、自賠責

※「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害、大雪(2014年2月発生)およびタイ洪水に係るインカードロスの合計

2014年度業績予想

グループ連結	資料18-20
今回業績予想の主な前提	資料21
三井住友海上(単体)	資料22-23
あいおいニッセイ同和損保(単体)	資料24-25

資料18 グループ連結 2014年度業績予想 ①

- ・ 正味収入保険料は前期比+1,154億円、増収率+4.1%の2兆9,250億円を予想
- ・ 国内損保では成長戦略の実現により増収。海外では引き続き業容拡大を見込む。

(億円)

	2013年度	2014年度(見込)	2014年度(見込)	
			前期比	増減率
正味収入保険料 ※	28,095	29,250	1,154	4.1%
三井住友海上	13,845	14,330	484	3.5%
あいおいニッセイ同和損保	11,446	11,560	113	1.0%
三井ダイレクト損保	355	362	6	1.8%
海外保険子会社	2,406	2,940	533	22.2%
生命保険料	6,789	6,310	△ 479	△ 7.1%

※ 正味収入保険料は、自動車保険「もどりッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

<参考：保険料（グロス収入保険料）>

	2013年度	2014年度(見込)	2014年度(見込)	
			前期比	増減率
三井住友海上あいおい生命	4,167	4,453	285	6.8%
三井住友海上プライマリー生命	8,264	5,000	△ 3,264	△ 39.5%

次に、2014年度の連結業績予想についてご説明いたします。
「資料18」をご覧ください。

グループ連結の正味収入保険料は2兆9,250億円、増収率は4.1%を見込んでおります。増収額は、今期も1,000億円を超える水準であり、三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保では機能別再編の着実な実行や成長戦略を織り込むとともに、海外保険子会社では引き続き業容の拡大を見込んでおります

生命保険料は6,310億円を見込んでおり、前期比で若干のマイナスとなっております。2013年度は株価回復などの環境をとらえ三井住友海上プライマリー生命が過去最高の売り上げを達成しましたが、2014年度は相場の推移をフラットに見ているため通常の水準に戻る計画としています。

資料19 グループ連結 2014年度業績予想 ②

- ・ 経常利益1,500億円、当期純利益は1,000億円を予想
- ・ 当期純利益では、生保事業で減益となるものの、国内損保、海外事業で増益を見込む。

(億円)

	2013年度	2014年度(見込)	
			前期比
経常利益	1,902	1,500	△ 402
三井住友海上	1,019	790	△ 229
あいおいニッセイ同和損保	278	270	△ 8
当期純利益 [※]	934	1,000	65
三井住友海上	580	620	39
あいおいニッセイ同和損保	131	340	208
三井ダイレクト損保	1	1	△ 0
三井住友海上あいおい生命	66	10	△ 56
三井住友海上プライマリー生命	179	120	△ 59
海外保険子会社	199	240	40
その他・連結調整等	△ 224	△ 331	△ 107

※子会社の当期純利益は、出資持分ベース

次に、2014年度の経常利益・当期純利益についてご説明いたします。
「資料19」をご覧ください。

グループ連結の経常利益は 1,500億円、前期比はマイナス402億円となりますが、当期純利益につきましては 1,000億円、前期比65億円の増益を予想しております。

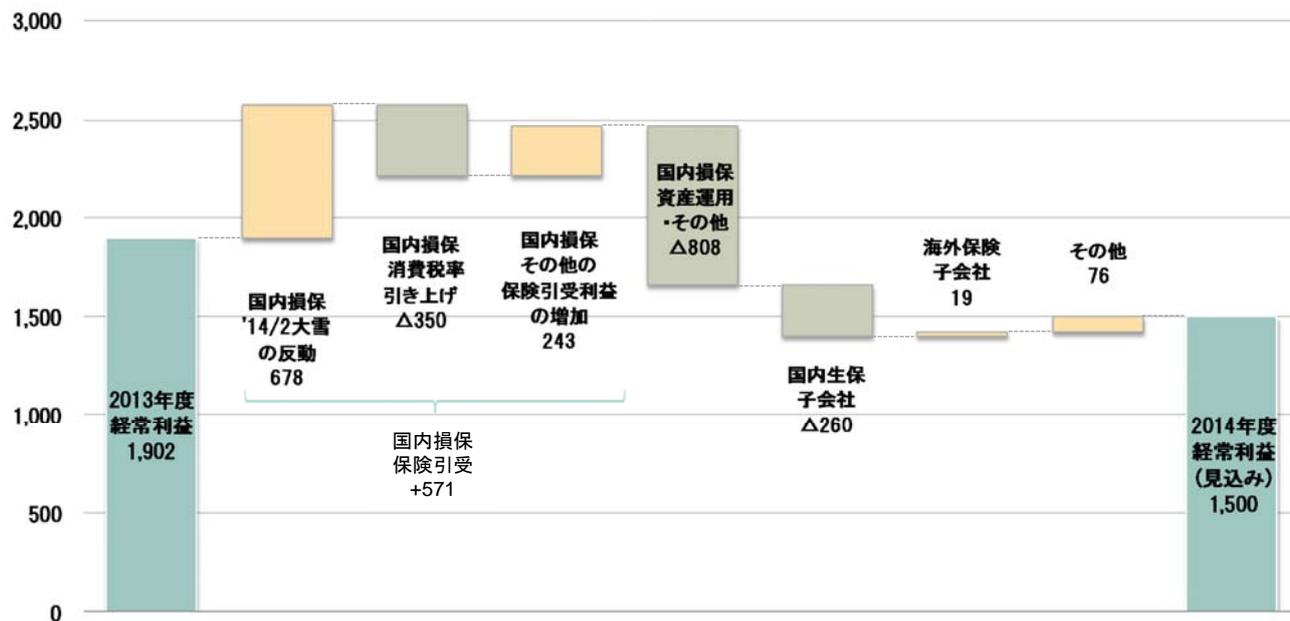
なお、配当につきましては、2014年度の中間配当および期末配当で、それぞれ1円、年間で2円の増配とし、1株当りの配当を年間58円へ引き上げる予定であります。

資料20 2014年度連結業績予想 ③実績との対比

- ・国内損保2社は、消費税率引き上げの負担があるものの、保険引受利益では前期比増益を見込む。
- ・一方、国内損保2社の資産運用損益および国内生保子会社では減益を予想

連結経常利益の推移と主な増減要因

(億円)



※ 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

経常利益の要因別内訳については、次の「資料20」をご覧ください。

まず、三井住友海上、あいおいニッセイ同和の2社について、2014年2月の大雪影響の反動で678億円のプラス影響がありますが、消費税率の引き上げにより、保険金、物件費、手数料などで負担が増加し、350億円のマイナス影響を織り込んでいます。

また2社ともに堅調な増収および収益力の改善を引き続き進める結果として、保険引受利益ではプラス571億円の増益を見込んでおります。

一方、資産運用等については、好調な2013年度からの反動を見込んでおり、808億円の減少としております。

また、三井住友海上プライマリー生命においても同様に運用環境が好調だった2013年度からの反動を見込むため、三井住友海上あいおい生命と併せた国内生保計でマイナス260億円となります。

この結果、グループ合計の2014年度の経常利益は1,500億円と見込んでおります。

資料21 今回業績予想の主な前提

- ・ 2013年度決算を踏まえ、財務の健全性を確保しつつ、成長の持続、収益性の向上を目指す。
- ・ 過年度発生の大雪・タイ洪水の支払保険金を約750億円見込む。

【業績予想の主要前提項目】

	三井住友海上	あいおいニッセイ同和損保
市場環境の前提	2014年3月末水準を想定 (参考)2014年3月末 日経平均 14,827.83円 米ドル 102.92円 ユーロ 141.65円	
当年度発生国内自然災害	230億円	150億円
大雪 (2014年2月発生)	正味支払保険金	245億円
	期末支払備金残高	25億円
タイ洪水 (2011年度発生)	正味支払保険金	9億円
	期末支払備金残高	-
異常危険準備金	火災保険繰入率	8%
	火災保険積増	△68億円
特別損益 (機能別再編に係る移行対価) ^{※1}	18億円	248億円
法人税率 (実効税率)	30.7%	

※1 機能別再編に係る移行対価は、グループの内部取引であり、連結消去によりグループの連結業績には影響しない。

※2 上記以外に、三井住友海上プライマリー生命について、価格変動準備金の追加繰入50億円を見込む。

これらの業績予想数値の主な前提について次のスライドでご説明いたします。「資料21」をご覧ください。

市場環境の前提は 2014年3月末水準としております。

当年度発生国内自然災害については、過去の実績等も踏まえた上で、ほぼ前期実績並みの2社で380億円の前提としております。

2014年2月の大雪、2011年のタイ洪水については、各社別の支払保険金および年度末支払備金残高を表に記載しており、2社合計でこれら支払保険金は合計で約750億円を予定しています。

これらに加え、当年度発生国内自然災害380億円も合わせた支払保険金は1,000億円を超える規模となります。

これらの支払保険金の予想値については、さまざまな状況変化によって、予想値と大きな乖離が生じることも想定されます。

一方で、全ての前提が予定通り推移した場合は、異常危険準備金の取崩益も相当の金額で発生することから、その場合には、将来への担保力強化のため異常危険準備金への追加的な積立などを検討しております。具体的には、今年度の業績予想では2社合計で約300億円の追加的な積立を織り込んでおり、この結果として、火災保険の異常危険準備金の残高は2013年度とほぼ同水準となる予定です。

次に、機能別再編に係る移行対価についてご説明します。

これは、昨年グループ各社間で締結した機能別再編に関する合意に基づき、各社間での保険契約の移行に係る対価を示しております。

これらの移行対価の損益は各社単体の業績に織り込まれますが、グループ全体では内部取引となり連結消去されるため、グループの連結業績に影響はありません。

法人税率については、復興特別法人税の廃止により実効税率30.7%となっております。

三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保単体の業績予想の詳細につきましては、資料22以降に掲載しておりますので、後ほどご覧ください。

資料22 三井住友海上（単体）2014年度業績予想 ①

（億円）

	2013年度	2014年度（見込）	
			前期比
正味収入保険料	13,845	14,330	484
正味収入保険料 増収率	5.3%	3.5%	△ 1.8pt
正味損害率	65.1%	65.7%	0.6pt
正味事業費率	32.0%	32.2%	0.2pt
コンバインド・レシオ	97.1%	97.9%	0.8pt
インカードロス	8,321	8,138	△ 182
保険引受利益	△ 73	110	183
ネット利息及び配当金収入	709	611	△ 98
有価証券売却損益	548	187	△ 361
有価証券評価損	△ 33	△ 30	3
資産運用損益	1,251	738	△ 513
経常利益	1,019	790	△ 229
特別損益	△ 174	17	191
当期純利益	580	620	39
〈除く家計地震・自賠責〉			
正味収入保険料 増収率	4.7%	3.4%	△ 1.3pt
正味損害率	62.2%	63.3%	1.1pt
正味事業費率	34.1%	34.4%	0.3pt
コンバインド・レシオ	96.3%	97.7%	1.4pt

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

資料23 三井住友海上（単体）2014年度業績予想 ②

正味収入保険料		（億円）	
	2013年度	2014年度（見込）	
			増収率
火災	2,122	2,229	5.0%
海上	567	612	7.9%
傷害	1,446	1,471	1.7%
自動車	6,083	6,260	2.9%
自賠責	1,734	1,806	4.1%
その他	1,889	1,952	3.3%
合計	13,845	14,330	3.5%
除く家計地震・自賠責	12,103	12,516	3.4%

※自動車保険「もどリッチ」の払戻充当保険料を控除したベース

正味損害率			
	2013年度	2014年度（見込）	
			前期比
火災	70.9%	74.9%	4.0pt
海上	59.6%	54.0%	△ 5.6pt
傷害	60.4%	58.5%	△ 1.9pt
自動車	63.5%	64.6%	1.1pt
自賠責	85.4%	82.9%	△ 2.5pt
その他	50.2%	52.2%	2.0pt
合計	65.1%	65.7%	0.6pt
除く家計地震・自賠責	62.2%	63.3%	1.1pt

インカードロス		（億円）	
	2013年度	2014年度（見込）	
			前期比
インカードロス（除く損害調査費）※1	8,321	8,138	△ 182
自然災害※2	469	230	△ 239
自然災害以外	7,851	7,908	57

※1 インカードロス＝正味支払保険金＋支払備金積増額

※2 「自然災害」は、当年度発生国内自然災害、大雪（2014年2月発生）およびタイ洪水をいう。

2013年度の「自然災害」には、タイ洪水のインカードロス△203億円、2014年2月発生の大雪に伴うインカードロス454億円を含む。

資料24 あいおいニッセイ同和損保（単体）2014年度業績予想 ①

（億円）

	2013年度	2014年度(見込)	
			前期比
正味収入保険料	11,446	11,560	113
正味収入保険料 増収率	3.8%	1.0%	△ 2.8pt
正味損害率	65.0%	66.7%	1.7pt
正味事業費率	34.5%	35.8%	1.3pt
コンバインド・レシオ	99.5%	102.5%	3.0pt
インカードロス	7,289	6,988	△ 301
保険引受利益	△ 288	100	388
ネット利息及び配当金収入	459	313	△ 146
有価証券売却損益	195	29	△ 166
有価証券評価損	△ 36	△ 50	△ 13
資産運用損益	530	170	△ 360
経常利益	278	270	△ 8
特別損益	△ 56	210	266
当期純利益	131	340	208
〈除く家計地震・自賠責〉			
正味収入保険料 増収率	3.2%	0.8%	△ 2.4pt
正味損害率	62.0%	64.4%	2.4pt
正味事業費率	36.5%	38.1%	1.6pt
コンバインド・レシオ	98.5%	102.5%	4.0pt

資料25 あいおいニッセイ同和損保（単体）2014年度業績予想 ②

正味収入保険料			
	2013年度	2014年度(見込)	
			増収率
火災	1,357	1,360	0.2%
海上	112	81	△27.9%
傷害	726	725	△0.2%
自動車	6,589	6,701	1.7%
自賠責	1,642	1,674	1.9%
その他	1,017	1,019	0.1%
合計	11,446	11,560	1.0%
除く家計地震・自賠責	9,798	9,881	0.8%

正味損害率			
	2013年度	2014年度(見込)	
			前期比
火災	64.8%	72.9%	8.1pt
海上	52.4%	58.0%	5.6pt
傷害	50.3%	48.6%	△ 1.7pt
自動車	63.2%	64.1%	0.9pt
自賠責	83.0%	80.8%	△ 2.2pt
その他	59.3%	66.2%	6.9pt
合計	65.0%	66.7%	1.7pt
除く家計地震・自賠責	62.0%	64.4%	2.4pt

インカードロス			
	2013年度	2014年度(見込)	
			前期比
インカードロス(除く損害調査費) ^{※1}	7,289	6,988	△ 301
自然災害 ^{※2}	493	150	△ 343
自然災害以外	6,796	6,838	41

※1 インカードロス＝正味支払保険金＋支払備金積増額

※2 「自然災害」は、当年度発生国内自然災害、大雪(2014年2月発生)およびタイ洪水をいう。

2013年度の「自然災害」には、タイ洪水のインカードロス△26億円、2014年2月発生の大雪に伴うインカードロス367億円を含む。

「グループコア利益」「グループROE」の定義

グループコア利益 = 連結当期利益 - 株式キャピタル損益(売却損益等) - クレジットデリバティブ評価損益 - その他特殊要因
+ 非連結グループ会社持分利益

グループROE = グループコア利益 ÷ 期初・期末平均連結純資産(除く少数株主持分)

予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社
広報・IR部

TEL: 03-6202-5268

e-mail: ms_ad_ir@ms-ad-hd.com

URL: <http://www.ms-ad-hd.com>

以上で、私からのご説明を終わります。